

シェラトングランドホテル広島にて、「インドネシア文化に親しむ会」を開催し、協会会員やインドネシア人留学生など、40名にご出席いただきました。このたびは、「広島国際映画祭2019」(11/22-24開催)にインドネシア人の映画監督リリザ様や女優のアガサ プリシラ様とルテチャ様が本国からご招待されるにあたり、当会にもゲストとしてお招きしました。3名のトーク、リリザ監督の「広島国際映画祭」特別招待作品「サニー 輝ける日々」の冒頭部分や短編映画などの鑑賞を通じて、現代インドネシアの理解を深めることができ、また、現地で絶大な人気を誇る映画人との交流も楽しめる、大変貴重な機会となりました。



田村会長の挨拶



リリザ監督の短編映画の上映



会場の様子



(左より)広島フィルム・コミッション 西崎様、田村会長、リリザ監督、ルテチャ様、アガサ プリシラ様



インドネシア料理



「ワルン マタハリ」オーナーシェフ イワン スラスナ様

インドネシア料理店「ワルン マタハリ」にて、「インドネシア料理を楽しむ会」を開催し、今回も多くのお申し込みをいただき、抽選で21名にご出席いただきました。バリ島出身のシェフ、イワン スラスナ様による美味しいインドネシア料理に舌鼓を打ち、シェフ特製のサンバル(インドネシアの調味料)プレゼントをかけたインドネシア式じゃんけん大会で盛り上がるなど、賑やかに交流を深めました。

在大阪インドネシア共和国総領事館から、総領事 ミルザ ノールヒダヤット様をはじめとする6名が田村会長を表敬訪問され、インドネシアと広島との友好関係や人的・経済的交流関係の強化などについて、意見交換が行われました。

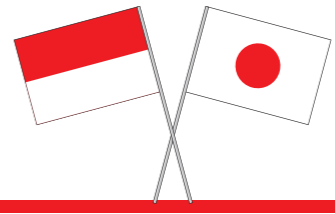


田村会長とミルザ ノールヒダヤット総領事様



ミルザ ノールヒダヤット総領事様から田村会長に記念品の贈呈

広島インドネシア協会会報



第30号
2020年 3月発行
編集・発行 広島インドネシア協会
広島ガス株総務部広報環境室
〒734-8555 広島市南区皆実町二丁目7-1
TEL (082) 252-3000



田村会長の挨拶(総会)

ANAクラウンプラザホテル広島にて、「2019年度 総会・交流会」を開催し、駐日インドネシア共和国大使 トゥリ プルナジャヤ様や、在大阪インドネシア共和国総領事 ミルザ ノールヒダヤット様をはじめとするご来賓をお迎えし、約220名にご出席いただきました。総会では、前年度事業報告や新年度事業計画などの各議案が滞りなく承認され、続く交流会では、インドネシア共和国クリエイティブ産業省のPR映像を上映した後、トゥリ公使様から田村会長へ記念品が贈呈されました。また、インドネシアからEPA(経済連携協定)に基づいて広島で看護師や介護福祉士として働きながら学ばれている方のご紹介や、介護福祉士試験合格者への花束贈呈、留学生からはインドネシアのガルーダを表現した伝統舞踊「タリ マヌク ダタリ」が披露され、華やかな雰囲気を盛り上げました。当日はラマダン(イスラム教の断食月)中のため、ムスリムの方は日没時刻を過ぎてから飲食を楽しまれました。



トゥリ公使様から田村会長に記念品の贈呈(交流会)



西野広島県地域政策局長様のご挨拶(交流会)



政氏広島市市民局長様のご乾杯(交流会)



ご来賓の皆さま



介護福祉士合格者ウイスティ様のご挨拶



留学生の舞踊「タリ マヌク ダタリ」

独立記念祭 2019年8月27日(火)

リーガロイヤルホテル広島にて、インドネシア共和国の独立74周年を祝う「インドネシア共和国 独立記念祭」を開催し、駐日インドネシア共和国大使 アリフィン タスリフ様や在大阪インドネシア共和国総領事 ミルザ ヌールヒダヤット様をはじめとする約190名にご出席いただきました。ドレスコードは「クールビズまたはパティック」で、多くの方が民族衣装パティックを着用されました。開会に先立ち、白井朝香様のシター演奏による清らかな音色のもと、全員が両国の友好と平和を祈りました。インドネシアの魅力的な観光地のDVD上映や、留学生によるインドネシア南スマトラ島ランブンプ州の伝統舞踊「ベダナ ダンス」の披露、広島大学を今夏卒業した留学生のご紹介と記念品贈呈、留学生会代表者や帰国留学生代表者の挨拶も行われ、会場は多くの会員やインドネシアの方の笑顔に満ち、両国の友好を深める場となりました。



インドネシア人の皆さまとご来賓



田村会長の挨拶 アリフィン タスリフ大使様のご挨拶 田邊副知事様のご挨拶 小池副市長様のご乾杯の発声



白井様によるシターの演奏 会場の様子 留学生の舞踊「ベダナ ダンス」

講演会・交流会 2020年1月28日(火)

ホテルグランヴィア広島にて、「講演会・交流会」を開催し、会員やインドネシア留学生とそのご家族など約140名にご出席いただきました。講演会テーマは「インドネシアにおけるヒューマンネットワークの構築 -広島大学の取り組み-」で、広島大学大学院 国際協力研究科教授の肥後靖様と、同工学研究科教授の濱田邦裕様にご講演いただき、会場では、「広島大学でこのような素晴らしい取り組みをされていることを初めて知った」「今後も広島とインドネシアの発展への貢献に期待したい」といった感想が多数聞かれました。交流会では、留学生による楽曲や舞踊「ガンビョン パンクール」の披露、在広島インドネシア留学生会代表者のご挨拶、インドネシアに帰国される卒業生への記念品贈呈や卒業生代表スピーチも行われ、賑やかで温かい交流会となりました。



田村会長の挨拶

ご講演要旨 「インドネシアにおけるヒューマンネットワークの構築 -広島大学の取り組み-」



講演会講師 肥後靖様

1990年当時、日本の船舶海洋工学研究は世界トップレベルでしたが、産業的には中国や韓国の追い上げを受け、学生の人気は低迷していました。大学で研究成果を上げるには優秀な若い人材が必要ですが、日本の優秀な学生の確保に苦慮していたため、東南アジアから迎えるべく、1994年にインドネシアを中心とした東南アジアを研究対象とする国際協力研究科が創設されました。当時、国際協力研究科のある大学は国立大学中わずか3つ、しかもインフラ整備の開発協力を担う技術系工学分野の教育も行うという点で、広島大学は大変ユニークでした。

しかし、国際協力研究科を創設しても、現地との交流がなくては優秀な学生は集まりませんでした。そこで「日本学術振興会 拠点大学方式交流プログラム」に応募したところ採択され、1997年に「アジアの海上輸送工学」をテーマとした学術交流を開始しました。インドネシア側はスラバヤ工科大学を拠点大学とした15大学、日本側は広島大学を拠点大学とした12大学で研究組織を組み、2006年までの10年間、現地の課題に現地研究者とともに取り組みました。交流の精神は「主役は現地の研究者」です。当時の日本の工学系の研究者は現地研究者との共同研究の経験に乏しかったため、当初は文化・風習・価値観の相違に戸惑うことも多かったようです。しかし、共に研究を進める中で協力の機運は高まり、当プログラム終了後も、海事産業振興策や船舶安全策などをテーマとして、現在も現地との共同研究は継続しています。

こうして、本事業は広島大学工学分野における現地研究の核となり、人的交流の促進にも寄与しています。インドネシアの留学生人数は2003年以降増加し、今や中国に次ぐ規模であることも、成果の一つかもしれません。

本事業はインドネシア共和国「海洋国家構想」マリンハイウェイ計画と類似したテーマであることから、本事業の方向性は間違っていなかったと確信していますし、国際協力研究科の創設と事業が工学分野におけるインドネシアとの人的交流の走りになったと考えています。



講演会講師 濱田邦裕様

広島大学と諸大学との学術交流事業が開始した後、2000年代に入ると、大学の国際化がますます求められるようになりました。

そこで、広島大学とバンドン工科大学は学術交流協定を締結し、技術的自立を目指した技術移転統合モデル開発の研究のため、バンドン工科大学の中に「広島大学バンドンセンター」を立ち上げました。当センターは留学生の受け入れや国際産学連携の促進を目的とし、開所と運営には広島の企業からも支援をいただきました。

バンドン工科大学と広島大学が共同して、進出側の日本企業と受入側の現地労働者の意識調査を行ったところ、労働者の満足度や熟練労働者の割合が転職者数に関係することや、現場の成功・失敗例など、本音に基づいた調査結果をまとめることができ、特に現地企業に大変喜ばれました。

また、この調査から新たな課題も見えました。日本企業がアジアの優秀な人材の確保を求めても、日本型ものづくりの人材育成はコミュニケーション重視で時間がかかり、人材がなかなか定着しないこと、アジアの高学歴人材はエリート意識が高いため現場作業者とのギャップがあることなどから、日本企業の海外展開キーパーソンの育成を目的として、修士課程2年間の教育プログラムを開発しました。留学生にはビジネス日本語や日本企業インターシップなど日本企業で活躍するための実践的な内容を、日本の学生にはアジア進出企業への海外インターンシップなどを盛り込みました。また、両留学生の情報交換の場も設けることで、互いの異なる経験が相乗効果も生み出しています。

こうした取り組みの効果として、継続的な人的交流の仕組みが構築されています。卒業した留学生は、現地の留学候補生に広島大学を推薦するようになり、また、現地の日系企業のエンジニアや研究者として就職するようになりました。大学研究者も、人脈は個人的・短期的にとどまらず、組織的・長期的に共有されています。今後は、インドネシアで構築した超長期的・戦略的な人的交流の仕組みを、他国でも展開したいと考えています。



ご来賓の皆さま 留学生の舞踊「ガンビョン パンクール」 留学生会代表ギラン様のご挨拶 帰国留学生代表メラニー様のご挨拶